別記様式第2号（その1の1）

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	学部設置							
フリガナ設置者	ガッコウホクシノ オテマエガクエン 学校法人 大手前学園							
フリガナ大学の名称	オテマエガク 大手前大学 (Otemae University)							
大学本部の位置	兵庫県西宮市御茶家所町6番42号							
大学の目的	<p>大手前大学は、総合文化学部総合文化学科、メディア・芸術学部メディア・芸術学科、現代社会学部現代社会学科、健康栄養学部管理栄養学科の4学部4学科を擁し、西宮市と伊丹市、大阪市にキャンパスを有する「リベラルアーツ大学」である。大学の「建学の精神」「大学の使命」を以下のように定め人材育成と研究を行っている。</p> <p>建学の精神を“STUDY FOR LIFE（生涯にわたる、人生のための学び）”と定め、この建学の精神に基づき、豊かな教養と専門的学術、旺盛な自己開発精神、優れた国際感覚および問題解決能力を備えた人材を育成し、地域の教育・研究および生涯学習の中心として、地域社会・国際社会に貢献することを目的とする。</p> <p>大学の使命は、①国籍、地域、民族、宗教、年齢、性別を問わず学ぶ機会を提供し、“STUDY FOR LIFE（生涯にわたる、人生のための学び）”を提供すること。②高い倫理観と強い意志を持って社会の困難な問題を他者と協働して解決する人材を育成すること。③教育と研究を通じて地域と連携し地域発展に尽くすと共に国際社会に貢献することである。</p>							
新設学部等の目的	<p>高度化・複雑化した医療・看護分野の課題を教育研究の対象とし、学修活動の中で、堅実な看護実践力と多様な対象者に対応できるコミュニケーション能力、行動力およびリーダーシップを身に付けるとともに高度な専門知識・技能を備え、将来の医療・看護分野で期待される多職種連携に役立つ人材育成、およびグローバル社会を生き抜く豊かな人間性を兼ね備え、国際化する社会の中で対象者の健康支援のために活躍しうる人材養成を目的とする。</p>							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	国際看護学部 [Faculty of Global Nursing]	年	人	年次人	人		年月 第 年次	
	看護学科 [Department of Nursing]	4	80	—	320	学士 (看護学)	平成31年4月 第1年次	大阪府大阪市中央区大手前2丁目1番88号
計		80	—	320				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	大手前短期大学 ライフデザイン総合学科〔定員減〕 (△50) (平成31年4月)							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
		講義	演習	実験・実習	計			
	国際看護学部 看護学科	51 科目	36 科目	16 科目	103 科目	124 単位		

教 員 組 織 の 概 要	学 部 等 の 名 称		専任教員等					兼 任 教 員 等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	人
新 設 分	国際看護学部 看護学科		8 (8)	5 (3)	9 (9)	10 (5)	32 (25)	3 (1)	33 (15)
	計		8 (8)	5 (3)	9 (9)	10 (5)	32 (25)	3 (1)	- (-)
既 設 分	総合文化学部 総合文化学科		14 (14)	7 (7)	3 (3)	1 (1)	25 (25)	0 (0)	108 (108)
	メディア・芸術学部 メディア・芸術学科		17 (17)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	24 (24)	0 (0)	128 (128)
	現代社会学部 現代社会学科		12 (12)	7 (7)	2 (2)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	85 (85)
	健康栄養学部 管理栄養学科		6 (6)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	81 (81)
	現代社会学部現代社会学科通信教育課程		9 (9)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	106 (106)
	計		49 (49)	26 (26)	7 (7)	1 (1)	83 (83)	0 (0)	- (-)
合 計			57 (57)	31 (29)	16 (16)	11 (6)	115 (108)	3 (1)	- (-)
教 員 以 外 の 職 員 の 概 要	職 種		専 任		兼 任		計		
	事 務 職 員		74 (86)		17 (26)		91 (112)		
	技 術 職 員		8 (9)		0 (0)		8 (9)		
	図 書 館 専 門 職 員		4 (6)		2 (2)		6 (8)		
	そ の 他 の 職 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)		
	計		86 (101)		19 (28)		105 (129)		
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計		
	校 舎 敷 地	23,779㎡	23,641㎡		0㎡		47,420㎡		
	運 動 場 用 地	763㎡	21,829㎡		0㎡		22,592㎡		
	小 計	24,542㎡	45,470㎡		0㎡		70,012㎡		
	そ の 他	6,434㎡	1,558㎡		0㎡		7,992㎡		
	合 計	30,976㎡	47,028㎡		0㎡		78,004㎡		
校 舎	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計			
	30,606㎡ (30,606㎡)	12,841㎡ (12,841㎡)		3,661㎡ (3,661㎡)		47,108㎡ (47,108㎡)			
教 室 等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設		語学学習施設			
	54室	20室	46室	11室 (補助職員3人)		0室 (補助職員0人)			
								大学全体	

専任教員研究室		新設学部等の名称			室数			共同研究室2室を含む		
		国際看護学部 看護学科			22 室					
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学・短大全体での共用分 図書338,800冊 〔58,742冊〕 学術雑誌7,645種 〔4,949種〕 大手前栄養製菓学院専門学校 との共用分図書23,353冊 〔131冊〕 学術雑誌79種〔4種〕(H29.3月 末現在)		
	国際看護学部 看護学科	3,768〔474〕 (3,068〔370〕)	1,994〔732〕 (1,994〔732〕)	1,982〔730〕 (1,982〔730〕)	350 (301)	5,677 (5,677)	35 (35)			
	計	3,768〔474〕 (3,068〔370〕)	1,994〔732〕 (1,994〔732〕)	1,982〔730〕 (1,982〔730〕)	350 (301)	5,677 (5,677)	35 (35)			
図書館		面積		閲覧座席数		収納可能冊数		大学全体		
		3,131㎡		524		289,167				
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
		3,355㎡		フィットネススタジオ		アスレチックジム				
経費の 見及び 維持方 法の概 要	経費 の見 積り	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には電子ジャー ナル・データベースの 整備費(運用コスト含 む)を含む。
		教員1人当り研究費等		300千円	300千円	300千円	300千円	－千円	－千円	
		共同研究費等		1,600千円	1,600千円	1,600千円	1,600千円	－千円	－千円	
		図書購入費	26,422千円	1,120千円	7,476千円	9,008千円	10,552千円	－千円	－千円	
	設備購入費	285,423千円	0千円	0千円	0千円	0千円	－千円	－千円		
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	1,890千円	1,620千円	1,620千円	1,620千円	－千円	－千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			手数料収入							

既設大学等の状況	大学の名称	大手前大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
	総合文化学部 総合文化学科	4	190	2年次 4 3年次 2	810	学士(学術)	0.89	平成19年度	兵庫県西宮市御茶家所町6番42号 兵庫県伊丹市稲野町2丁目2番2号	平成28年度入学定員減(△30人) 平成29年度編入学定員減(2年次△2人) 平成30年度編入学定員減(3年次△2)
	メディア・芸術学部 メディア・芸術学科	4	180	2年次 4 3年次 2	760	学士(学術)	0.93	平成19年度	兵庫県西宮市御茶家所町6番42号 兵庫県伊丹市稲野町2丁目2番2号	平成28年度入学定員減(△20人) 平成29年度編入学定員減(2年次△2人) 平成30年度編入学定員減(3年次△2)
	現代社会学部 現代社会学科	4	220	2年次 4 3年次 2	931	学士(学術)	0.97	平成19年度	兵庫県西宮市御茶家所町6番42号 兵庫県伊丹市稲野町2丁目2番2号	平成28年度入学定員減(△30人) 平成29年度編入学定員減(2年次△2人) 平成30年度編入学定員減(3年次△3)
	健康栄養学部 管理栄養学科	4	80	3年次 16	256	学士(栄養学)	1.08	平成28年度	兵庫県伊丹市稲野町2丁目2番2号	
	現代社会学部 現代社会学科(通信教育課程)	4	500	3年次 500	3,000	学士(学術)	0.16	平成22年度	大阪府大阪市中央区大手前2丁目1番88号 兵庫県西宮市御茶家所町6番42号	
	大学の名称	大手前大学大学院								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍				
比較文化研究科 比較文化専攻(博士前期課程)	2	10	—	20	修士(学術)	0.30	平成8年度	兵庫県西宮市御茶家所町6番42号		
比較文化研究科 比較文化専攻(博士後期課程)	3	3	—	9	博士(学術)	0.33	平成10年度	兵庫県西宮市御茶家所町6番42号		
大学の名称	大手前短期大学									
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地		
	年	人	年次人	人		倍				
ライフデザイン総合学科	2	250	—	500	短期大学士(ライフデザイン)	0.74	平成16年度	兵庫県伊丹市稲野町2丁目2番2号		
附属施設の概要	名称：大手前大学史学研究所 目的：地域文化財の研究及び研究成果の地域社会への還元 所在地：兵庫県西宮市郷免町8-17 設置年月：平成15年3月 規模等：建物面積1,258.35㎡									

教育課程等の概要															
(国際看護学部看護学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合科目	基礎分野	リベラルアーツ	キャリアプランニングⅠ	1前	1				○		6	4	9	10	兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 集中
		キャリアプランニングⅡ	2前	1				○		6	4	9	10		
		生命・医療倫理	1後	1				○							
		哲学入門	1前		1			○							
		法学の基礎	1前		1			○							
		国際社会学	4前		1			○							
	看護のための接遇演習	1前・後		1				○							
	グローバル社会と言	Practical English I for Nurses	1前	1				○			1				兼2
	Practical English II for Nurses	1前	1				○			1				兼2	
	Academic Writing & Debate	3前	1				○							兼1	
	看護のための中国語	1後		1			○							兼1	
	看護のための韓国語	1後		1			○							兼1	
Basic Communication in Global Context	2前		1			○			1						
Listening & Speaking in a Global Society	2前		1			○			1						
グローバル社会と文化	大阪・神戸における多様な共生社会と文化	1前	1				○			1				兼6	
医療人類学	1前	2				○			1					オムニバス	
情報倫理	1後		1			○								兼1	
国際政治・経済	1後		1			○								兼1	
科学と情報	化学	1前	2				○			1					兼1
生物学・細胞生物学	1前	2				○								兼1	
情報活用Ⅰ	1前	1					○							兼1	
情報活用Ⅱ（含統計処理）	1後	1					○							兼1	
スポーツ生理学	1前	1						○						兼1	
スポーツと健康	1後	1					○							兼1	
	小計（24科目）	—	17	10	0			—		8	5	9	10	0	兼21
専攻科目	人体の構造と機能	解剖生理学	1前	2				○							兼1
		病態生理学	1前	2				○			1				
		生化学	1後	1				○							兼1
		薬理学	1後	1				○			1				
		微生物学・医動物	1後	1				○							兼1
		臨床栄養学	1後	2				○							兼1
	疾病の成り立ちと回復の促進	病態学Ⅰ（呼吸器・循環器）	2前	1				○							兼1
		病態学Ⅱ（栄養代謝）	2前	1				○							兼1
		病態学Ⅲ（造血・免疫）	2前	1				○			1				
		病態学Ⅳ（脳・神経・感覚）	2前	1				○							兼1
		病態学Ⅴ（運動）	2前	1				○			1				
		病態学Ⅵ（内部環境調節・性・生殖）	2前	1				○			1				
疾病と治療	2前	1				○			1					集中	
健康支援と社会保険制度	健康と社会・生活	2後	1				○			1					
	公衆衛生	2後	2				○							兼1	
	社会福祉と社会保障	2後	2				○			2				兼1	
	医療関係法規	2後	2				○			2		2		兼1	
他者理解とコミュニケーション	医療コミュニケーション	1前	1				○					1			
	ひとの発達とライフサイクル	1後	1				○							兼1	
	カウンセリングスキル	2前	2				○							兼1	
	小計（20科目）	—	27	0	0			—		3	0	1	2	0	兼12

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考									
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手										
専攻科目	精神看護学	精神看護学概論	2後	1			○																
		地域社会のメンタルヘルスと多様性	3前	1				○															
		精神看護援助論Ⅰ	3後	1					○						1						共同		
		精神看護援助論Ⅱ	4前	1						○					1	1					共同		
		精神看護学実習	4前	2							○				1	1					共同		
	国際地域看護学	在宅看護学概論	2後	1				○						1									
		グローバル化と在宅看護	3前	1					○					1									
		在宅看護援助論Ⅰ	3後	1						○											2	共同	
		在宅看護援助論Ⅱ	4前	1							○										2	共同	
		在宅看護学実習	4前	2								○			1						2	共同	
	国際看護学	国際看護学概論	1前	1				○						1									
		国際看護演習Ⅰ	1後	1						○				1	1							1	共同
		国際看護演習Ⅱ	2前	1							○			1	1								共同
		国際看護演習Ⅲ	3前	1								○		1	1								共同
		国際看護演習Ⅳ	4後	1		1						○		1	1								共同
		国際看護学実習Ⅰ	1前	1								○		1	1							1	共同
		国際看護学実習Ⅱ	2前・後	1									○	1	1							1	共同
		国際看護学実習Ⅲ	3後	1									○	1	1							1	共同
	統合分野	外国人診療	4前	1				○						2								兼1	オムニバス
		災害看護	4後	1					○						1								
看護研究Ⅰ		3後	1						○				6	4	9								
看護研究Ⅱ		4通	3							○			6	4	9							※講義	
統合看護学実習		4後	2								○		6	4	9	10						共同	
小計 (59科目)		—	73	1	0			—					7	4	9	10	3			兼1	—		
合計 (103科目)		—	117	11	0			—					8	5	9	10	3			兼33	—		
学位又は称号		学士 (看護学)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係 (看護学関係)															
卒業要件及び履修方法							授業期間等																
(卒業要件) ・4年以上在学し、必修117単位、選択必修2単位を含む合計124単位以上を修得すること。 ・入学時からの通算GPA1.5以上 履修科目の登録の上限：1年次 40単位/年度、2～4年次 20単位/学期 ※GPAにより変動 (履修方法) 総合科目の【基礎分野】から、以下の通り合計22単位以上を修得すること。 ・必修17単位 ・[グローバル社会と言葉] から選択必修2単位* ・[リベラルアーツ] [グローバル社会と文化] の選択科目から合計3単位以上 専攻科目の【専門基礎分野】区分から必修27単位を修得すること。 専攻科目の【専門分野】区分から必修73単位を修得すること。 * 「看護のための中国語」または「看護のための韓国語」のいずれか1単位 および「Basic Communication in Global Context」または「Listening & Speaking in a Global Society」のいずれか1単位							1学年の学期区分		2学期														
							1学期の授業期間		15週														
							1時限の授業時間		90分														

授 業 科 目 の 概 要			
(国際看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合科目 基礎分野 リベラルアーツ	キャリアプランニングⅠ	1人の教員が数名単位の少人数の学生を受け持ち、大学生としての学びの姿勢を培いつつ、社会人基礎力の「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」のうち、「考え抜く力」を中心に学ぶことを目的とする。学生は、興味・関心のある国内外の医療や看護、健康に関する時事問題を抽出し、関連情報を収集する方法および収集した情報を読み解く方法を学ぶ。また、学生自身が考え、調べた内容をもとにプレゼンテーションを行い、自分の見解を論拠に基づいて詳細に提示する方法を学ぶ。	
	キャリアプランニングⅡ	「キャリアプランニングⅠ」で学んだことを基礎として、本講義では社会人基礎力のうち、「前に踏み出す力」と「チームで働く力」を中心に学ぶ。医療機関をはじめとする多様な現場で働く看護師、助産師、保健師の役割と業務内容、職責および看護活動について学び、学生一人ひとりの看護職としてのキャリアプランニングを促す。また、「キャリアプランニングⅠ」でまとめた国内外の医療や看護、健康に関する時事問題について、学生自身が考える解決策をまとめ、プレゼンテーションする。 看護職の幅広い業務について理解をより一層深め、自身のキャリアについて考えるとともに、文章作成能力や自分の主張を説得的に発信する能力を高める。	
	生命・医療倫理	人を対象にした医療・看護および研究に関する自律尊重の原則やパターナリズムなどの医療倫理において、重要な基本概念や諸問題について理解を深める。個人の生命、尊厳および権利を学び、インフォームド・コンセントの重要性や病状告知への配慮、プライバシーの保護、終末期医療や生殖補助医療、遺伝子や再生医療、医学研究上の倫理的社会的法的な倫理的課題を海外の現状や最新動向を踏まえながらグローバルな視点から学び、看護師として求められる倫理的判断能力を高める。	
	哲学入門	哲学で扱われてきた主な問題について取り上げる。自己と他者、生と死、愛、倫理、正義など本来は身近なことについて、哲学者たちがどのように論じてきたかを解説する。また講義内容についてクラス内で意見を交換したり議論をし、他者の価値観を知り、共感や合意の困難さと必要性について学ぶ。本講義では、ものごとの表面だけでなくそれを成り立たせている本質について深く考えること、また自分の考えを言葉で表現できるようになることをめざす。	
	法学の基礎	法の体系と存在意義についての知識を深め、法を活用した問題解決の方法を探りながら、大学における学び方を身につけてゆく。看護学を専攻する学生を対象とする授業であることを前提として、①憲法(法と生命、基本的人権)、②民法(医療契約、医療過誤と損害賠償)、③刑法(医療行為の合法性)など、具体的事例から法の本質を理解できるようにする。単に知識を身につけるだけでなく、論点を分析し、論理的に結論を出し、他者に対して自分のことばで説明できるようにすることを目指す。	
	国際社会学	国際社会における現代的な課題について、医療ならびに保健衛生を中心的な対象に、他の分野(政治、経済、環境、教育など)も関連させながら、その中身、背景、今後の展望について検討する。国際社会学の基礎的な理解を経た上で、各授業回で具体的なトピックを提示し、報道記事、統計資料、映像コンテンツなど複数の手段を用いて実態を理解する。また、各種問題に対する私たちの対応の仕方についても、討論を通じてアイデアを出し合い、共有化を図る。問題への対応については、NGO(非政府組織)の活動を紹介するなどして、政府や企業以外に、広く多様な形でアクターが存在することを強調し、討論を活性化させたい。	
	看護のための接遇演習	医療従事者における「接遇」の重要性を学び、その技術を習得する。医療現場で信頼を得るためには、ホスピタリティを「表現する」技術が必須である。本講義では、表現方法の基本として、身だしなみ、表情、動作・態度、挨拶・返事、話し方、言葉遣いを学び、さらにその基本を活用した電話応対、患者・家族応対、案内、などを実習により体得する。また、基本どおりに体現できない状況においても、「自ら表現する」意識を持ち、「状況に応じた適切な接遇」ができるよう、ケーススタディを通じて学び、習得を目指す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合科目	基礎分野	グローバル社会と言葉	Practical English I for Nurses	本講義では、2人またはグループでいくつかの具体的な場面を想定した会話を繰り返しながら、英語によるコミュニケーション能力の向上をはかる。その際、同じ内容を伝える場合であっても、世界の様々な地域によって異なる言い方や単語が使われていることを、その背景にある文化の多様性に着目して理解する。イギリス、ドイツ、シンガポール、フランス等の諸外国の文化にも触れながら学ぶことで、グローバルな視野を涵養する。	
			Practical English II for Nurses	本講義では、「Practical English I for Nurses」の学びを基礎として、人々が医療機関を受診する際に必要であると考えられる知識を基に、病院スタッフとのスピーキング、受診時に必要な書類へのライティング、リーディング、リスニングについての基本的な能力をさらに高めることを目的とし、看護の場面までを想定したロールプレイを通して、医療現場における英語の実践力を身に付ける。	
			Academic Writing & Debate	本講義では、将来学生が学会発表や論文投稿をする際に必要となるアブストラクトの作成や文章構成について学ぶ。標準的な英語文法を使って短い文章を作るところから、句読点、接続詞等の表現を使用して、理論的思考による文章全体の構成を考慮した文章作成が行えることを目的とする。さらに、テーマとなる国際社会における問題について賛成・反対の考えを英語でまとめるとともに、学生同士で議論する場を設ける。ディベートでは理論的思考、批判的思考、説得力、プレゼン力、コミュニケーション力および時間管理能力を学び、ディベートのテクニックを学ぶ。	
			看護のための中国語	初心者を対象とし、基礎から中国語を学修する。中国語の発音と発音表記（ピンイン）を学修するとともに、中国語を用いた外来での挨拶と問診票を用いた問診の取り方および病棟におけるバイタルサインの測定時に求められる病状の聞き取り方法を学ぶ。また、入院時の施設設備や入院生活上の留意点等、実際に看護師として病院等で勤務した場合に必要な基本的な患者との対応を想定し、中国語で適切なコミュニケーションが行えるようになることを目的とする。会話のほか筆談によるコミュニケーション等、看護の現場を想定した実践的な演習を行う。	
			看護のための韓国語	近年、社会のグローバル化にともない医療の世界においても外国人と接する機会が増えている。本講義は、韓国語を母語とする人に対して医療現場において必要な基本的な文化理解と語学力を身につけることが目的である。まず、韓国語の文字であるハングルから学修を始め、外来で必要な基本挨拶や問診の取り方、また病棟において使える病状の聞き取り等の表現を学修する。授業の後半は、実際に看護師として韓国語を母語とする患者に接する場面を想定しながら、基礎的なコミュニケーションが取れるように、ケーススタディ形式のトレーニングを重ねていく。	
			Basic Communication in Global Context	本講義では、英語による日常生活上のコミュニケーションスキルを培うだけでなく、新聞、雑誌、ニュースで取り上げられる時事問題、例えばグローバル社会における政治、経済、環境や紛争、難民問題など、より社会情勢を反映した題材を用いて、多岐に渡る語彙力を高めながら、意志表現や伝達するためのプレゼンテーションやコミュニケーションの方法を学ぶ。	
			Listening & Speaking in a Global Society	本講義では、ネイティブスピーカーが話す英語を聴くことで、英語による発音や会話での英語表現などに慣れ親しみ、英語によるリスニングスキルを高める。また、学生同士ロールプレイを行い、相手の話す内容を聴き取り、それに応じた返答する能力を身に付ける。与えられた設定で会話をする練習の後、学生自身の身の回りの話題について、自由に会話をする機会を通じて、「聴く」「話す」両方の技術を向上させる。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合科目	基礎分野	グローバル社会と文化	大阪・神戸における多様な共生社会と文化	<p>本学が位置する大阪・神戸は港町として栄えた商業地としての歴史的な背景から定住外国人や国内移住者が多く、出身も多様な地域である。本科目では、労働者として移民してきた人々が集住する地域を取り上げ、定住外国人のもつ文化的・社会的・歴史的背景の多様性を理解し、そこで暮らす人々の多様な価値観を尊重し、受容することの重要性を学ぶ。さらに、生き方には多様な選択肢があることを学び、幅広い年齢層の人たちとの共生についても学ぶ。それぞれの多様な個と共存しながら生きていく方法を考察する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (10 野波 侑里/2回) 初回と最終回を担当する。初回は大都市でありながら豊かな里山の文化を内包する大阪・神戸の地域的な特徴と多様な共生社会の全体像を学ぶ。最終回は、各回の学修をもとに多様な個の共生、共存について考察する。</p> <p>(63 村上 桂太郎/1回) 神戸市長田区の震災以降の多国籍定住外国人コミュニティの現状について授業を行う。</p> <p>(51 金 宣吉/1回) 神戸市長田区の定住韓国・ベトナム外国人の歴史と高齢化について授業を行う。</p> <p>(61 松原 マリナ/1回) 神戸市中央区の定住ブラジル人コミュニティの歴史と現状について授業を行う。</p> <p>(48 上田 假奈代/1回) 大阪市西成区の多様な人々の生き方と表現を受け止める場所づくりについて授業を行う。</p> <p>(56 谷川 尚/1回) 西宮市の保育園活動を通じた幼児との共生について授業を行う。</p> <p>(62 三田 保則/1回) 大阪市の高齢者大学を通じた高齢者との共生について授業を行う。</p>	オムニバス方式
			医療人類学	<p>本科目は、医療・健康・病気について社会文化的な背景をもとに理解する重要性について学ぶことがねらいである。</p> <p>まず、人類学における文化・社会の定義を学び、その普遍性と多様性を理解した上で、文化相対主義などの基本的な考え方を修得する。</p> <p>具体的には、国家や民族における文化の多様性、個人と社会との関係性について学ぶ。その後、健康という概念の社会文化的な多様性、各民族の病気観や医療観の多様性について学ぶ。</p> <p>また、環境に対する人間の適応、医療的多元論、ヘルスケアシステム、病いの語り、医療化など医療人類学における基本的な項目を学ぶ。最後に、近年の日本における医療人類学の研究を紹介する。日本におけるうつやアトピー性皮膚炎の研究を紹介することで、具体的に医療人類学的な視点の重要性を学ぶ。</p>	
			情報倫理	<p>大学生活およびその後の社会人生活において必要不可欠な情報倫理について学修する。情報通信ネットワークを活用したビジネスやコミュニケーションが重要となる現在では、情報倫理について十分な理解をしていることが求められている。普段は見逃しがちな点も指摘しながら、具体例の提示や事例の考察を中心に解説する。社会における情報倫理を理解した上で情報の活用およびコミュニケーション能力を身につけることを目標とする。</p>	
			国際政治・経済	<p>ヒト・モノ・カネは国境を越えてグローバル化を活発にさせ、このようなグローバル化の中で経済問題は様々な政治問題と影響を与え合っている。本授業ではまず比較生産費説から国際収支論、そして円高・円安の意味と国際通貨制度の歩み、多国籍企業と直接投資など一体化する世界を経済学的に捉える基礎理論を学ぶ。次にEU、アメリカ・ラテンアメリカ、中国・韓国・ASEANの現状を知りさらに途上国経済について学び人間開発を促す援助のあり方を考える。グローバル化はとりわけ国際協力を必要としている発展途上国に光と影をもたらす。さらに地球環境問題、食糧問題、規制緩和や貿易交渉など時事問題について学びグローバル時代の世界経済のしくみを学修していく。このようにして本授業では国際協力に必要なマクロ経済や国際金融そして国際関係の基礎知識を身につけることを目的としている。</p>	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合科目	基礎分野	科学と情報	化学	看護学・医学の基礎知識としての基礎化学を学ぶ。人体は有機物をはじめとした多種類の化学物質の集合体であり、人体を理解するためには正確な化学の知識は必須である。原子の構造、化学結合、結合のイオン性と分子間力、酸・塩基と酸化還元、反応速度と自由エネルギーなどの一般化学の基礎を学んだ後に、有機化学を学ぶ。これらの知識を専門基礎科目の生化学の知識へとつなげる。高校までに化学を十分に学修していない学生に対して、看護学の順調な学修が行えるように配慮する。	
			生物学・細胞生物学	細胞は生命の基本単位であり、生物体を構成している。細胞は外からの栄養分子の摂取を基礎にその「生きる」姿を達成する。その結果、細胞の構造形成、増殖や運動の機構、情報伝達機能、生体防御機能、遺伝機能等により高次の生命現象が営まれる。本講義は、細胞が営むそれら生命現象の基本を生物学的な観点と関連させて理解することを目的とする。具体的には①細胞の構造・機能②タンパク質・酵素の機能③生体エネルギー論④栄養素の代謝⑤情報伝達機能⑥遺伝子機能⑦免疫機能等の学修を通じて、細胞集合体としての生物学全般を俯瞰する。最後に、遺伝子工学等最近の生物学・細胞生物学上の話題についても触れる。	
			情報活用Ⅰ	大学生活およびその後の社会人生活において必要不可欠な、コンピュータに関する基礎知識と基本操作・応用操作について学修する。まず、大学での学びをスムーズにするために必要となる学内情報システム（電子メールシステム、学内ファイルシステム、LMS等）に関する基本操作について学ぶ。そして、ワープロソフトを用いた文書作成の基本操作、ビジネス文書作成技法、論文・報告書作成技法、ビジュアル文書（ポスター、パンフレット、企画書等）作成技法について学修する。また、現代の情報化社会で生活するうえで必要となる情報モラルについても学修する。	
			情報活用Ⅱ（含統計処理）	プレゼンテーションソフトと表計算ソフトに関する基本操作・応用操作について学修する。プレゼンテーションソフトでは、スライド作成技法とビジュアル文書作成技法について学修する。表計算ソフトでは、まず、データ入力操作、ワークシート操作、基礎的な関数操作、基礎的なグラフ作成操作などの基本操作を学ぶ。その後、「卒業研究」を見据え、平均値、中央値、最頻値、有意差といった基本的な統計用語について学び、表計算ソフトによる統計処理演習も行う。そして、情報を客観的に分析して評価するための基盤となる知識と情報活用能力を修得する。	
		スポーツとセルフケア	スポーツを行うことが身体にどのような効果をもたらすのかを、講義と実技を通じて理解する。具体的にはカロリーカウンター、目標心拍数を計算する心拍数時計を使用して、校内における普段（日常）の活動時とスポーツ時の値の変化を測定する。また、乳酸値、血糖値をスポーツ前後に測定し、その値の変化を自身の身体で体験する。自身の体力の現状を知り、フィットネスルームにおける運動処方を作成する。その処方を基に定期的にトレーニングを実施し、適切な運動方法とスポーツのもたらす効果を実体験を通して学ぶ。	実技 20 時間 講義 10 時間	
		スポーツと健康	「健康とは何か」をスポーツを中心に据えて、身体的・精神的・社会的側面から理解する。精神的側面として、現代のストレス社会に対応するための「メンタルヘルス」の重要性を学ぶ。自身の「心の健康」状態を把握し、心の健康とスポーツの関係性を学ぶとともに、ストレスの緩和および解消方法を習得する。また「超高齢社会」、「少子高齢化」などの社会的側面からくる身体的な影響に対応する方法として、高齢者の転倒から起こる骨折、寝たきりを予防するためのデュアルタスクな体操を学ぶ。さらに、子どもの健康を取り上げ、外遊びの時間の減少から起こる運動機能の衰えが日常生活にもたらす影響（ロコモティブシンドローム）や身体の変化について、実態と対処法を学ぶ。	講義 18 時間 実技 12 時間	
専攻科目	専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学	患者に対する看取り、慈愛が看護の真髄であることには言を俟たない。しかし、プロとしての看護職には、更に患者の苦痛がいかなる機序で発現しているかの知識に基づいた理解が求められ、その上で科学に基づいた看護を行わなければならない。この様に患者中心の看護を実践するためには、まず正常な人体の構造（解剖）と機能（生理）を基礎として習得しておかねばならない。高学年になるにつれ必須となる科目の速やかな理解と修得のためにも、その基礎の基礎とも言える科目である解剖生理学を解説する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専攻科目	専門基礎分野	人体の構造と機能	病態生理学	疾病の起こる原因（病理病態論）を理解するとともに、これらの不調がどのように現れ、どう対処すべきか（病態症候論）を学修する。病理病態論では体液の異常、血行障害、炎症、免疫、感染、腫瘍、先天異常、代謝異常と疾病との関係を学修する。病態症候論では疾病により発現する症候別の病態生理とアセスメントについて学修する。取り上げる症候としては呼吸困難、ショック、腹痛、便秘・下痢、貧血、頭痛、歩行障害、発熱・低体温、脱水などがある。	
			生化学	生化学の知識を臨床看護につなげてとらえられるよう、「代謝」を軸に学修する。生物は、自らの生命活動に不可欠な物質を合成し、不要になった物質を分解し、排泄している。生命維持に必要な栄養素のはたらきと物質代謝の主要な経路について学び、さらに血糖値などの恒常性がどのように調節・維持されているのかを理解する。代謝のバランスが崩れたときに起こる代謝異常と疾患についても知る。また、「遺伝情報」がどのようにして次世代に伝わり、タンパク質として発現されるかを学ぶ。最後に遺伝子診断や遺伝子治療についての話題にも触れる。	
			薬理学	薬が疾患の治療に用いられる理由を理解し、投与前の準備から投与後の経過観察までの一連のプロセスにおける薬の適正使用に関する考え方を習得する。また、臨床場面を意識し、実際の看護に求められる薬の知識、投薬場面における注意事項を学修する。特に、生活習慣病、がん・痛み、脳・中枢神経疾患、感染症、救急救命時、アレルギー・免疫不全疾患、消化器疾患、代謝・内分泌疾患、血液・造血器疾患、腎疾患、運動機能障害などに使用する薬について学修する。その他、主な和漢薬（漢方薬）の作用、機序、適応、有害事象および看護援助についても学修する。	
			微生物学・医動物	感染症の原因となる微生物・医動物などの病原体について学ぶ。まず、1 各々の病原体（細菌、真菌、原虫、ウイルスなど）の特徴および宿主への感染機作を概説する。2 宿主の臓器・組織別にみる感染症と病原体を説明する。3 宿主側の要因により影響を受ける感染症と病原体の説明をする。4 感染症の分類および免疫機能による感染防御機構を概説する。5 ワクチン接種と血清療法による感染症の発症予防と減菌、消毒法について説明する。最後に、6 感染症の検査法と治療法（抗感染症薬等を含む）について概説する。総じて、微生物学および感染症とその予防等について学ぶ。	
			臨床栄養学	栄養は、ヒトが生命を維持するために不可欠なものである。また、ヒトは毎日食べ物を摂ることで、栄養を営んでいる。看護師として臨床栄養学の知見を看護ケアに生かすため、栄養ケアマネジメントの知識をもとに栄養アセスメントを行い、食事と栄養がヒトの命にとっていかに大切なものであるかを知ることで社会的責任を果たす能力を養うことを目標とする。また、この授業はただ単なる座学ではなく、一人一人がヒトのモデルケースとなり臨床に即した自己の栄養のあり方を学ぶことで、チーム医療の一翼を担い、傷病者のみならず全ての人が健康で豊かな食生活を創生できる可能性を探ることを目的とし、適切な看護を実践するために必要な栄養学の基本的知識を学修する。	
			疾病の成り立ちと回復の促進	病態学Ⅰ（呼吸器・循環器）	呼吸と循環の正常な構造と機能を理解し、その機能が障害を起こす際の病態生理、臨床における検査や治療、そして看護までを一連の流れを通して学修する。呼吸器と循環器は密接に関連しており、両者の機能障害を総合的に学修する。呼吸機能障害では、酸素を取り込む機能と酸塩基平衡を保つ機能と障害について学修し、気管支鏡などの特殊検査を理解したうえで看護について学修する。循環器機能障害では、ポンプ機能、弁膜、冠血流、刺激伝導系、末梢循環の障害を学修し、心臓カテーテル検査などの特殊検査を理解したうえで、看護について学修する。
	病態学Ⅱ（栄養代謝）	栄養代謝を行う働きをもつ摂食・嚥下、消化吸収、排泄、代謝のそれぞれの正常な機能とメカニズムを理解し、その機能障害をもたらす疾患の病態、症状、検査、治療、機能障害がある患者の看護について講義により学修する。摂食・嚥下機能障害では口腔疾患から食道疾患までを、消化吸収機能障害では胃・十二指腸、腸、胆道、膵臓疾患を、排便機能障害では大腸、肛門疾患を取り上げる。また、代謝疾患では、肝臓疾患、糖尿病、痛風などを取り上げる。			

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専攻科目	専門基礎分野	疾病の成り立ちと回復の促進	病態学Ⅲ（造血・免疫）	造血機能と免疫機能の正常な構造と機能を理解し、その機能が障害を起こす際の病態生理、臨床における検査や治療、そして看護までを一連の流れを通して学修する。血液疾患として貧血、白血球減少症、血小板減少症・機能異常、凝固・線溶系の異常などを取り上げ、それらの要因がどういった影響を身体の構造や機能に与えるのかも学修する。また、免疫疾患として、自己免疫疾患、アレルギー性疾患、食物アレルギー、薬物アレルギー、アナフィラキシーショック、免疫不全を取り上げる。	
			病態学Ⅳ（脳・神経・感覚）	脳・神経機能と感覚機能の正常な構造と機能を理解し、その機能が障害を起こす際の病態生理、臨床における検査や治療、そして看護までを一連の流れを通して学修する。脳・神経系の疾患としては、脳血管障害、脳腫瘍、頭部外傷、水頭症、中枢神経系感染症、脊髄・脊髄神経疾患、神経変性疾患、認知症、てんかん、末梢神経障害などを取り上げる。また、感覚機能障害としては、知覚、聴覚、平衡感覚、嗅覚、視覚、体性感覚の障害を取り上げる。	
			病態学Ⅴ（運動）	運動機能の正常な構造と機能を理解し、その機能が障害を起こす際の病態生理、臨床における検査や治療、そして看護までを一連の流れを通して学修する。運動機能障害については、骨格系、脊髄系、関節、筋肉に分類して学修する。また、スポーツ、生活や行動の制限、事故、加齢に由来する運動機能障害や幼児・小児に特有な運動機能障害についても学修する。さらに、疼痛の緩和、転倒予防、日常生活支援、社会生活支援の看護についても学修する。	
			病態学Ⅵ（内部環境調節・性・生殖）	内部環境調節機能と性・生殖機能の正常な構造と機能を理解し、その機能が障害を起こす際の病態生理、臨床における検査や治療、そして看護までを一連の流れを通して学修する。内部環境調節機能では、体液調節、体温調節、内分泌機能障害、腎機能障害、尿路障害を学修する。また、性・生殖機能では、男女生殖機能障害に伴う不妊症、性感染症、乳腺疾患、性行動・性生活の障害を学修する。日常生活やストレスが与える影響についても学修する。	
			疾病と治療	看護実践に必要な主要疾患についての概念、診断と治療、看護ポイントを学修する。病態学ⅠからⅥの総括を行い、臨地実習で出会う疾患の基礎知識を整理する。疾患名ごとの講義を行い、血液・造血器疾患、循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、代謝疾患、内分泌疾患、腎・尿路疾患、生殖器疾患、整形外科疾患、神経・運動器疾患、自己免疫・アレルギー性疾患、感覚器疾患、精神疾患などを取り上げる。視覚教材を用いることで、疾患の症状への知識と理解を深める。	
	健康支援と社会保障制度	健康と社会・生活	大きく変動する現代社会の中で、看護職者として現代社会のあり方をとらえ直すとともに、社会の基盤をなす一人ひとりの人間の生活・暮らしを理解することを通じて、患者や住民の生活を援助することの重要性を学修する。個人の健康、家族の健康、社会的健康とはどのようなものであるかを理解し、それぞれが対立、協働することを理解する。さらに、地域社会とグローバル社会に対する理解を深め、生命倫理やエビデンスに基づく健康行動を学修する。		
		公衆衛生	人々の健康は、自然環境・社会的環境・文化的環境と強く関わっている。公衆衛生学は、その環境の中で生きていく人々の生涯にわたる健康の維持・増進のため、関連する諸制度の整備と保健活動の組織的推進を考究する学問である。本講義では、環境諸要因が個人と集団の健康や社会生活に及ぼす影響について理解を深めるとともに、様々な集団の特性に対応した保健活動の内容について学ぶ。また、看護師として必要な疫学の基本的な知識と技術を習得できるように、疫学的研究手法（観察研究と介入研究）の内容とその研究結果の解析方法（相対危険度やオッズ比など）について学習する。なお、環境汚染関連疾患、感染症、職業性疾患の種類とその対策を理解し、公衆衛生活動の実践活動を学ぶとともに、人々の健康を守るための組織、機関および医療従事者の役割や機能への理解を深める。		

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	専門基礎分野	健康支援と社会保障制度	社会福祉と社会保障	<p>人々の生活を支えるさまざまな社会福祉・社会保障に関する制度や法律、社会行政の仕組み・取り組みを理解し、日々の看護活動に活かせるよう学修する。まず、社会福祉・社会保障の歴史、機能や役割を通して、その目的を理解する。また、社会福祉と社会保障の対象と領域および制度と実際のサービスの内容についても理解し、ライフサイクルと社会福祉・社会保障との関連だけでなく、子ども、高齢者、障がい者（児）の福祉についても学修する。さらに社会保障制度を学ぶことにより、保健医療と福祉の連携の必要性を理解し、諸制度を人々の生活と関連付け、今後の看護活動に活かせるよう学修する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(① 大橋 一友/3回) 単位認定者 母子保健を中心にライフサイクルと社会福祉・社会保障についての授業を行う。</p> <p>(2 山本 純子/1回) 障がいを持つ人々がどのように社会福祉や社会保障制度を利用して、地域とかかわりながら暮らしているのかについて教授する。また、社会福祉や社会保障制度による、地域における健康支援サービスや看護活動との関連を学び、社会福祉からみる障がい者（児）の生活について授業を行う。</p> <p>(⑩ 坂本 圭/11回) 社会福祉・社会保障の歴史や役割等、人々の暮らしと社会福祉について授業を行う。また、現代社会に生きる私たち一人ひとりが知っておくべき社会保障制度と人々の暮らしからみる福祉、保険・医療の実際と多職種連携や看護活動との関連等について、具体的な事例も示しながら教授する。</p>	オムニバス方式
		医療関係法規	<p>看護職者として必要な看護に係る法規の基本的事項を学修する。医療関係法規は、日本国憲法第二十五条の規定に基づき、公衆衛生の向上を目的としている。そこで日本国憲法、民法、刑法などの基礎となる法規から、看護師など医療従事者に関する法規、薬物に関する法規、感染症予防に関する法規を学修する。また、母子、小児、高齢者、障がい者（児）、生活の福祉に関する法規を学修する。さらに、保険、労働衛生、環境・食品・公害などに関する法規も学修する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(① 大橋 一友/2回) 単位認定者 医師法および医療法、健康増進法等の保健に関する法規について教授する。</p> <p>(50 北村 純夫/5回) すべての法規の基本となる憲法、民法等にも触れながら、看護師と関係法規の関わりや法規を学ぶ必要性について教授する。また、環境基本法、食品衛生法、水質汚濁防止法等を通して、健康に悪影響を及ぼす要因と国の施策について教授する。</p> <p>(6 齋藤 雅子/3回) 看護師を志すものとして学修しておくべき保健師助産師看護師法および関連する法規のほか、母子および小児の保健と福祉に関する法規について教授する。</p> <p>(22 市川 由希子/4回) 感染予防に関する法規や、障害者基本法、身体障害者福祉法等の障がい者の保健と福祉に関する法規について教授する。また、保健や労働衛生に関する法規についても授業を行う。</p> <p>(32 山本 真理子/1回) 老人福祉法、社会福祉法等、高齢者の保健と福祉に関する法規について授業を行う。</p>	オムニバス方式	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	専門基礎分野	他者理解とコミュニケーション	医療コミュニケーション	看護職者として対象者と適切なコミュニケーションをとることは、人々に安全で安心できる医療と看護を提供するうえで必要不可欠なスキルである。看護師が行うコミュニケーションは看護実践を展開する際に必要な情報を得ると共に、対象者の葛藤や苦悩を共感し、安心を提供する役割もある。「伝わる」「聴く」「質問する」をポイントとし、自己分析と自己改革により、効果的なコミュニケーションの技法を習得する。さらにチーム医療や多様性を有する社会における倫理的なコミュニケーションの重要性と役割について学び、専門職に必要なコミュニケーション能力について理解を深める。加えて、言語以外に、非言語コミュニケーションの方法と、具体的な感情の表出についても学び、看護師に求められるコミュニケーションの重要性と知識を深める。	
			ひとの発達とライフサイクル	看護の対象である人の誕生から死を迎えるまでの全てのライフステージにおいて、人はどのようにして、「ひと」として生きるのに必要な知識やスキルを学び、発育・発達していくのかを理解する。具体的には、乳・幼児期、学童期、青年期、成人期、中年期、老年期の各ライフステージに応じた発達課題について学ぶとともに、各段階でどのような側面（知的側面、社会性、自己や他者についての概念など）がどのように発達し、それが他の領域や次の段階の発達にどのようなつながっていくのかを理解していく。また、各ライフステージに好発する心理臨床的問題を知り、それに対しどのような健康支援が必要なのかを考察する。	
			カウンセリングスキル	対象の求める看護を提供する際に、そのニーズを的確に把握するために、また、対象の心身の苦悩や葛藤を受容し共感することができるようになるためのツールとして、傾聴する方法を学ぶ。そのために、カウンセリングの基礎的知識とともに、具体的なスキルとして傾聴やその他の介入の技術を学修する。多様な看護対象者への対応ができるようになることを目標に、カウンセリング技法の基本的な考え方だけではなく具体的な方法として学び身につけることを目指す。	
専門分野	基盤専門看護学分野	基礎看護学	看護学概論	看護の対象である人を、成長・発達の概念と社会的背景および環境から対象の理解を捉え、人の健康と疾病に影響を与える諸要因について学ぶ。また、看護の主要な概念や理論、法的側面および日本や諸外国にみられる看護実践における知識・技術、看護実践の評価などの視点から、学問として看護学を考える。そして、看護がもつ社会的機能・役割について理解し、保健医療福祉の専門職として、人々の健康・生活へどのようにアプローチしていくかを学ぶ。	
			グローバルヘルスと看護	国際社会、政治、経済、環境そして文化間にみられる諸問題と我々の健康およびヘルスケアとの関連を学び、グローバル化によるもたらされる健康課題や諸外国の保健、医療、福祉の概念や看護を理解する。多様性をもつ対象への理解とウェルネスの概念、環境が与えるライフサイクルの影響と健康、社会的背景によって異なる看護ケアとその課題に関する学びを深める。そして看護の課題に取り組む国際的組織とグローバルの視点を基に考えることの必要性を学び、人々の多様性に応じた看護実践に必要な知識、考え方の基盤をつくる。	
			基礎看護方法論Ⅰ（含医療安全）	看護におけるヘルスアセスメントの目的・意義を理解し、対象者の健康状態を身体的・心理的・社会的側面から総合的にアセスメントをするための知識と基本的技術を学ぶ。特に身体的アセスメント（フィジカルアセスメント）については、対象者への観察項目も含めたフィジカルアセスメント技術の修得を図る。また、対象者から得た身体の情報については、正常・異常の判断ができるよう、解剖・生理学や臨床検査の内容などの基礎的知識を基本にすえて学修を深める。さらに、対象者へのケアを実施する際に発生しやすい医療事故とその予防および対応策についても学ぶ。くわえて、多様性を有する対象者への説明方法や配慮についても理解を深める。	
			基礎看護方法論Ⅱ（含看護管理）	医療の診断、治療の場面において、安全・安楽に受療できる環境を提供するために、法的側面を踏まえて、基本的な看護技術に関する知識や技術を習得し、診療の介助技術、検査、投薬、消毒、創傷の管理に対する看護師の役割と、クリティカルシンキングの視点を身につけた安全・安楽な援助技術について学ぶ。また看護実践における科学的根拠や安全性、効率性、有効性などの評価や看護管理的なマネジメントの視点、院内感染や医療事故予防対策にむけた病棟管理に加えて、スタッフへの指導や教育についても、その必要性や方法について、具体的な事例を踏まえて学び、看護師が行う人的、物的管理の視点を養う。	

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	専門分野	基盤専門看護学分野	基礎看護学	基礎看護技術Ⅰ	様々な健康障害と日常生活の変化に直面している看護の対象者を、地域に暮らす生活者として理解し、生活者の健康を病院や地域においてどう看護するのかを考えながら、対象者を理解し、把握する方法を修得する。そのために、医療現場に身を投じることを想定し、学生同士が看護職者と患者の双方の立場でロールプレイを行い、問診の取り方や、診療の介助、入院の説明やコミュニケーションの工夫を学修する。また、対象者の日常生活を把握するための看護職としてのコミュニケーションのとり方や、対象者の健康状態を把握するためのフィジカルアセスメントの基本概念も理解する。	共同
				基礎看護技術Ⅱ	看護実践の構成要素と看護技術の側面を理解し、対象者が求める基本的な欲求とそれへの対応として提供される「日常生活に関する援助技術」を修得する。また、生活者として存在する患者を理解し、よりよく生きることを支えるために必要な看護計画の基本的な考え方を学ぶ。さらに、外来における問診のとり方についても学修し、日本語版と英語版もしくは両方の言語が併記されている問診表を用いてロールプレイを行い、常に英語での表現を意識させることで「国際看護演習Ⅰ」で学修する医療英語の定着を促す。多様な看護技術の方法に触れ、なぜそういった看護を提供するのかを考え、科学的思考と理論的根拠を深める学びの動機付けとする。	共同
				基礎看護技術Ⅲ	事例を基にして、様々な健康障害と日常生活の変化に直面している看護の対象者をホリスティックに理解し、健康上および生活上の問題を看護の視点で捉え、ニーズに即した看護過程を展開する基礎的能力を習得する。その際、提供される看護技術の科学的根拠および理論的枠組みを踏まえたうえで、日常生活を整えるための清潔援助、呼吸循環を整える援助、対象者の健康状態や身体状況を把握するための生体機能の観察技術、苦痛緩和や安楽確保のための薬法、死亡時のケアについて学ぶ。さらに、入院生活の説明の仕方等について、日本語版と英語版もしくは両方の言語が併記されている入院生活の説明文章を用いてロールプレイを行い、常に「国際看護演習Ⅰ」で学んだ英語表現を意識しながら学修する。	共同
				基礎看護技術Ⅳ	固有のニーズをもつ看護の対象者をホリスティックに理解し、健康上および生活上の問題を看護の視点で捉える看護過程が展開できる能力を促す。また、立案した看護計画を患者の状況に合わせて再考するとともに、患者の反応を確認しながら、看護計画を変更する知識も学ぶ。そして、実行した看護実践を振り返り、看護チームで共有することを通して、自己課題を明確化するとともに患者によりよい看護を探究し、自らの看護観を深める意識を促す。この他、放射線診断・治療の効用とリスクを学び、医療者の被ばくを防ぐ方法を学修する。また、一時救命処置および応急処置についてその重要性を理解するとともに、処置の具体的な方法を習得する。なお、ロールプレイでは日本語版と英語版もしくは両方の言語が併記されている問診票等の説明資料を用いる。常に英語での表現を意識しながら実践を繰り返し行うことで、「国際看護演習Ⅱ」で学ぶ医療英語の定着をはかる。	共同
				看護過程	基礎看護学のこれまでの既習科目「看護学概論」、「基礎看護技術Ⅰ～Ⅱ」で学んだ内容を、臨床の場で出会うことの多い事例を通して、看護過程における看護の役割と意義を学ぶ。看護過程の5段階の順序、情報の収集、看護課題の抽出、看護目標の設定、個別に応じた看護実践および評価とそれぞれの定義を理解し、一連の看護過程の展開方法を学び、臨床に適應できるよう問題・課題解決能力に向けた思考と看護の専門職に求められる基礎的知識および基礎的看護技術の統合を図る。	共同
				基礎看護学実習Ⅰ	看護の対象である患者と療養環境である病院の機能と役割について理解する。また、入院病棟以外に看護が展開されているさまざまな場面、外来および検査部門等、対象が利用する多様な施設内設備および機能・役割において、サービスを提供している職種とその受け手の状況を知り、必要とされている看護援助について見学から理解することで今後の学修への動機づけとする。そこで看護を提供する看護専門職としてのキャリア形成に向けた意識を培う。さらに、様々な職種が協働・連携していることを知り、対象や多職種との良好なコミュニケーションについて学ぶ。同意が得られた対象者とのコミュニケーションを図り、看護を展開する上でのコミュニケーションの役割と必要性を学修する。	共同

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	専門分野	基礎専門看護学分野	基礎看護学	基礎看護学実習Ⅱ	対象者の最適健康状態を目指して、健康障害により日常生活の援助を必要とする患者に対して、既修科目で学んだ知識・技術・態度を適用・応用し、看護活動を実践するための基礎的能力を習得することをねらいとする。具体的には、患者を取り巻く療養環境を理解し、信頼関係を構築するためのコミュニケーションを図ることや、療養環境を整え基本的な日常生活援助の看護実践を学ぶ。病棟における看護師の役割を考えるとともに、看護を実践する上での自己の姿勢・態度と職業倫理について学ぶ。同意の得られた対象者を受け持ち、対象者の全体像を把握しながら対象者へのケアに参加し、コミュニケーションを図り対象理解を深めるとともに、看護を提供する際の留意点も学修する。	共同
			基礎看護学	基礎看護学実習Ⅲ	これまでに学んだ知識・技術・態度を患者に適用し実践することを通して、患者を統合的に理解し、個別的な看護を実践するための看護上の問題を解決していく基礎的なプロセスを臨床の場で実践する。そして、看護専門職として、科学的・倫理的な看護ケアを提供するための基盤となる能力を習得する。具体的には、臨床の場面において対象者の情報収集および情報の整理・分類といった一連の援助活動から患者の全体像を把握する方法を学ぶ。 看護問題の抽出と看護計画の立案を行い、さらに立案した看護計画に基づいた看護援助を患者の安全・安楽・自立を考慮しながら実施し、その評価を行う。加えて、患者と援助関係を構築するためのコミュニケーションを図り、看護学生としての責任と役割を理解する。同意の得られた対象者を受け持ち、対象理解を深化させながら看護過程を立案し、対象のニーズに応じた基本的な日常生活援助と看護を実施し、その評価を行い、自己課題を明らかにする方法を学修する。	共同
		成人看護学	成人看護学概論	成人期にある人々の身体的・精神的・社会的な特徴を発達課題や健康上のニーズおよび健康問題から理解する。それらの特徴を踏まえ、健康に及ぼす要因、健康が生活や社会に及ぼす影響について学ぶ。また、各健康レベルに応じた看護実践のあり方や医療システムについて理解し、成人を対象とした健康上の問題に対処できる看護の役割や機能、成人に対する看護の基盤となる概念や理論について学び、援助に必要な知識・技術・態度について学修する。		
			多様性とセルフマネジメント	癌の術後や慢性病を抱えた人が依存的な存在ではなく、自立した存在としてセルフマネジメントしていくための支援方法を学び、患者自身が身に付けなければならない三つの能力、「シンプトン・マネジメント」「サイン・マネジメント」「ストレス・マネジメント」を理解する。また、「患者力」をうまく引き出すために必要な「対象理解」「援助方法」「評価方法」を理解する。さらに、文化的背景が与える成人期のセルフマネジメントを必要とする対象の理解およびグローバルな視点でみた病と伴に生きる人々へのセルフマネジメント支援について学ぶ。		
			急性看護援助論Ⅰ	セルフケアという概念を軸に据え、「急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力」に必要な知識と支援方法を学修する。健康危機状況では、自身の健康をセルフケアすることが困難な危機的状況に焦点を当て、一人ひとりの「健康観」「健康感」に沿う看護について学修する。セルフケアの再獲得では、セルフケア再獲得モデルを提示し、セルフケアが低下した状態にある生活者としての個人の回復に向けた支援について、リハビリテーション看護の視点も踏まえて学修する。 ロールプレイで使用する問診票、診療申込書、入院時の説明資料は日本語版と英語版もしくは両方の言語が併記されているものを用いる。常に英語での表現を意識しながら実践を繰り返すことで、「国際看護演習Ⅱ」における医療英語の学びを深める。	共同	
			急性看護援助論Ⅱ	周術期にある成人期の人々の身体的・精神的・社会的特徴および家族を含めた健康課題やニーズを理解し、回復過程が円滑に進むための看護の役割および援助を学修する。また、周術期に関わる職種や術式等近年の傾向を知り、外科的侵襲から回復期の生体反応と術後合併症等の心身への影響のアセスメント方法について学ぶ。周手術期過程(術前・術中・術後)に必要な看護実践の基礎となる概念や理論を理解し、各疾患・手術に特徴的な看護実践についても学ぶ。 ロールプレイで使用する問診票等の説明資料は日本語版と英語版もしくは両方の言語が併記されているものを用いる。常に英語での表現を意識しながら実践形式での演習を繰り返すことで、「国際看護演習Ⅱ」および「国際看護演習Ⅲ」における医療英語の学びを深化させる。	共同	

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	専門分野	基盤専門看護学分野	成人看護学	慢性看護援助論Ⅰ	<p>一般病棟や外来、在宅において、すべての看護師が身につけるべき「基本的緩和ケア」について学修する。痛みをはじめとした身体的苦痛・精神的苦痛・社会的苦痛・スピリチュアルな苦痛の緩和やコミュニケーション、家族ケア、臨死期のケア、倫理的問題、非がん患者の緩和ケアの基本的な知識や概念、早期より問題に直面している患者とその家族のQOLに対する考え方を学修する。また、緩和ケアの歴史や国内外の緩和ケアの現状を知り、国内の緩和ケアの課題と看護師の役割を理解する。</p> <p>ロールプレイで使用する問診票等の説明資料は日本語版と英語版もしくは両方の言語が併記されているものを用いる。常に英語での表現を意識しながら実践形式での演習を繰り返すことで、「国際看護演習Ⅱ」における医療英語の学びを深める。</p>	共同
			慢性看護援助論Ⅱ	<p>さまざまな疾病や外傷により生じる生活機能の障害の特徴について学修し、リハビリテーションの観点から看護の役割を学ぶ。リハビリテーションの回復、安全・安楽の確保、健康維持のための概念や理論、リハビリテーションを受ける対象の特徴を理解し、必要な看護援助を計画・実践できるための基礎的な知識・技術・態度を体系的に学修する。また、チーム医療における看護職の役割、多職種や他施設の看護職との連携の必要性や倫理と法律や施策について理解する。</p> <p>ロールプレイで使用する問診票等の説明資料は日本語版と英語版もしくは両方の言語が併記されているものを用いる。常に英語での表現を意識しながら実践形式での演習を繰り返すことで、「国際看護演習Ⅱ」および「国際看護演習Ⅲ」における医療英語の学びを深化させる。</p>	共同	
			成人看護学実習(急性期)	<p>医療施設の成人病棟において、周手術期または急性期にある成人期から老年期の患者を受け持ち、対象の発達段階と健康レベルに応じた看護援助を行う。特に、外科的侵襲や疾患による心身の変化による生命の脅かしを最小限にとどめ、速やかな回復を促進し、患者とその家族の安寧を守るための看護について学ぶ。</p> <p>具体的には、急性期にある患者の特徴とニーズを把握した上で、適切な看護計画を立案し、実際に看護過程の展開について学修する。また、手術を受ける患者の麻酔と手術による影響を身体的、心理社会的状況を把握した上で適切な看護援助を行う能力の習得を目指す。そして、手術により変化した形態や機能に対応し、患者の自立を考慮した援助を行い、看護学生として責任ある行動・態度を培うとともに、医療チームの一員として自覚をもち行動することを学ぶ。同意の得られた急性期にある対象者を受け持ち、対象理解を深化させながら、対象のニーズに応じた看護過程の展開を実施、評価し、よりよい看護実践の方法を考察する一連のプロセスを学修する。</p>	共同	
			成人看護学実習(慢性期)	<p>医療施設の成人病棟において、慢性疾患もしくは終末期にある成人期から老年期の患者を受け持ち、対象の発達段階と健康レベルに応じた看護援助を行う。特に長期療養や終末期にある患者の苦痛の緩和を図り、主体的な療養生活を促進し、患者とその家族のQOLの充実を支援するために必要な看護の知識・技術・態度について学ぶ。</p> <p>また、慢性疾患の特徴を理解し、患者を多角的・全体的に把握し、疾患や治療の特徴、生活上の規制を理解し患者の健康問題に応じた看護過程を展開する。さらに、患者と家族が直面する健康問題に対処するため、他の看護チームメンバーや多職種と連携し、看護学生として責任ある行動・態度を学ぶ。加えて、退院後のセルフケア向上のために利用可能な社会資源を理解する。そして、同意の得られた慢性期にある対象者を受け持ち、対象理解を深化させながら、看護過程の展開を実践し、対象のニーズに応じた看護の実施、評価とよりよい看護に向けた看護の再構築という一連のプロセスを学修する。</p>	共同	
生涯発達看護学分野	母性看護学	母性健康看護学概論	<p>母性看護学では、女性の健康を考える上で基礎となる概念を理解し、成長発達・加齢に伴い変化する女性特有の機能と心理社会的な特徴を理解する。リプロダクティブヘルス/ライツの観点から、女性の健康維持・増進・疾病予防・健康への回復を図る看護専門職者としての役割を学び、実践活動を考察できる能力を習得する。また、わが国の少子高齢化の到来と母性看護との関連を探り、次代が健やかに生まれ育ち、人類が健全に発展していくための基盤である母性の役割や女性の意思決定を尊重した健全な母性機能が遂行できるための看護活動を理論や定義を通して習得する。</p>			

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	専門分野	生涯発達看護学分野	母性看護学	グローバル社会とウィメンズヘルス	女性の健康に影響する社会構造・環境をグローバルな視点から国際政策や法令、女性の健康に関する統計、歴史の変遷と現状を学び、女性のライフステージに伴う健康課題/問題を理解し、女性が自ら能力を生かしていけるよう健康を維持・増進するために必要な看護を学ぶ。 女性のライフステージ（思春期、成熟期、更年期、老年期）の各期の特徴と健康課題/問題から看護の必要性を理解し、グローバル社会における女性の健康支援の方法を学ぶ。	
			母性看護援助論Ⅰ	周産期（妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期）に焦点をあてた看護実践が展開できる能力を習得する。妊娠した女性は妊娠、分娩、産褥、育児へと移行していく過程において、身体的、心理的、社会的な変化を経験する。その変化を学ぶと同時に、妊産婦と新生児を家族の一員としてとらえ、家族の発達と健やかな成長発達をもたらす看護を学ぶ。 また、周産期の異常をもつ女性や家族に対して、周産期におこりやすい異常の発生機序、症状、治療など心身の変化から、役割の変化や生活・社会に与える影響を理解し、より健康に生活するための看護援助を学ぶ。 ロールプレイで使用する問診票等の説明資料は日本語版と英語版もしくは両方の言語が併記されているものを用いる。常に英語での表現を意識しながら実践形式での演習を繰り返すことで、「国際看護演習Ⅱ」および「国際看護演習Ⅲ」における医療英語の学びを深化させる。	共同	
			母性看護援助論Ⅱ	「母性看護援助論Ⅰ」の学びをふまえ、周産期における女性と家族の特徴を理解し、必要な看護援助の具体的な知識・技術を習得する。紙上事例を用いて、対象の看護診断に必要な観察技術、情報の判断技術を学修し、ウェルネス獲得にむけた適切な看護課題/問題を考え、科学的根拠に基づいた看護過程を展開する。シミュレーターや模擬患者を用いた演習では、周産期にある女性が、自らの能力を活かして健康に過ごすことを目指した基本的な援助技術を学ぶ。 ロールプレイで使用する問診票等の説明資料は日本語版と英語版もしくは両方の言語が併記されているものを用いる。常に英語での表現を意識しながら実践形式での演習を繰り返すことで、「国際看護演習Ⅲ」における医療英語の学びを深化させるとともに、多様性への対応を強化する。	共同	
			母性看護学実習	新しい命をはぐみ家族を形成していく過程にある女性とその家族に関わり、対象が抱えている健康課題や問題を理解し、ウェルネス獲得に向けた必要な看護援助を考え提供することを学ぶ。具体的には、妊産婦と新生児の生理的特徴を理解し、健康状態をアセスメントすることができる能力を培う。また、妊産婦と新生児に対して適切な看護過程の展開を実施し、妊娠期や産褥期にある女性とその家族へ教育的な関わりを理解する。 さらに、母乳育児確立や母児の愛着形成を促進するための看護援助について理解し、地域における母子とその家族の健康生活を援助するための医療施設や保健医療制度、サービスと多職種連携の実際を知り、母性看護の必要性と機能について理解する。くわえて、多様性を有する対象者からの同意が得られた場合は、対象を受け持ち、対象理解を深化させながら、対象のニーズに応じた看護の方法を学修する。	共同	
			小児看護学	小児看護学概論	小児看護の歴史と意義、子どもの権利や法律・施策の課題、小児看護で用いられる概念や理論について理解する。また、胎児期から乳児期、幼児期、学童期、思春期にいたるまでの子どもの健全な成長・発達を促進するための看護を学ぶ。また、健康障害が、子どもと家族に与える影響を理解し、子どもと家族の両方を包括的にとらえた環境の重要性を理解し、健康レベルに応じた日常生活の過ごし方や援助について学修する。また、具体的な看護の展開について学修する。	
			多様性と子ども	メディアの発達、生活習慣の変化、保護者の雇用形態の多様化など子どもをとりまく社会環境の変化が著しい。また、いじめや不登校など学校生活における問題、子どもの貧困率の上昇など子どもの成長発達への影響要因は多様化している。さらに、テロリズム、難民の大量発生などの国際的な動向もグローバル社会において、子どもの環境を考察する重要な要素となる。国内外の子どもを取り巻く政策、医療、保健について学び、看護職としての役割を多面的に考察できる視野の涵養をはかる。		

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専攻科目	専門分野	生涯発達看護学分野	小児看護学	小児看護援助論 I	「小児看護学概論」で学修した小児看護の目的、発達の知識を基盤に、小児に多い疾患および小児各期特有の疾患の病態、診断、治療、予後、看護について系統別に学修し、臨床実習に応用することを学ぶ。 また、様々な健康問題を抱える子どもと家族に対して、回復に必要な具体的な子どもの日常生活援助、病気や入院が子どもや家族におよぼす影響について学ぶ。子どもにとって苦痛な処置や検査への対応を、子どもの力を引き出す視点で思考できる能力の習得を目指す。 ロールプレイでは問診票等の説明資料は日本語版と英語版もしくは両方の言語が併記されているものを用いる。常に英語での表現を意識しながら実践形式での演習を繰り返すことで、「国際看護演習Ⅲ」および「国際看護演習Ⅲ」における医療英語の学びを深化させる。	共同
		小児看護援助論 II	既習科目の「小児看護学概論」と「小児看護援助論 I」での学びを踏まえて、発達段階を理解した上で、子どもに多くみられる症状への対応の実際について個々の子どもと家族がQOLやWell-Beingを向上していくための看護に必要な知識を習得する。病態理解をふまえ、健康障害を持つ子どもの日常生活への援助方法、症状緩和の援助方法を実践できる能力の習得を目指す。小児看護特有の技術に関する知識や技術を修得する。また、多様性を有する子どもへの看護や保育上の留意点を含めて、健康な子どもの保育・養護に必要な知識を理解する。 ロールプレイで使用する問診票等の説明資料は日本語版と英語版もしくは両方の言語が併記されているものを用いる。常に英語での表現を意識しながら実践形式での演習を繰り返すことで、「国際看護演習Ⅲ」における医療英語の学びを深化させるとともに、多様性への対応を強化する。	共同		
		小児看護学実習	小児が個性ある一人の存在であること、成長発達の途上であることについて経験を通して学ぶことをねらいとしている。そのうえで小児看護に関する理論、概念、知識、技術を統合しながら、小児とその家族への看護実践ができる能力を養う。具体的には、保育施設実習で、健康な小児とかかわり、子どもの特徴、発達段階ををふまえたコミュニケーションと日常生活援助について学ぶ。病棟実習で患児を受け持ち、健康障害をもつ子どもの成長、発達および生活とその家族に及ぼす影響を理解し、健康問題を抽出し、根拠を持った看護ケアを実践する。また、子どもと家族が健康な生活を送るうえで役立つ保健医療福祉制度・サービスや多職種連携の実践を学び、小児看護に携わる看護師の役割について理解する。同意が得られた小児とその家族を看護の対象として受け持ち、対象理解を深化させながら、対象のニーズに応じた看護過程を展開し、子どもとその家族を対象にした看護の在り方を学修する。	共同		
	老年看護学	高齢者看護学概論	老年看護学を学ぶにあたっての考え方の基本、老年看護と他の学問領域あるいは社会制度との関連を理解し、老年看護で学ぶべき内容の基本を理解する。また日本の高齢化をグローバルな視点からとらえ、定住外国人を含めた高齢者がより良く生きていくための社会を洞察する。そして、高齢者の身体的、心理精神的、社会的特徴と、個々の生きてきた生活史、高齢者の家族、高齢者を取り巻く環境、社会状況の変化から高齢者を統合的に理解することを学び高齢者の生き方を理解する。また高齢者の人権や権利擁護の重要性を学ぶとともに、加齢や社会的役割などの変化がどのように生活に影響するのかを理解し、高齢者のエンパワーメントに貢献する環境の調整のあり方を考察する。さまざまな健康レベルにおける看護援助のあり方、チームで関わることの必要性を学ぶ。			
		多様性と超高齢化社会	日本は世界に類を見ないスピードで超高齢社会に突入した国である。世界に先駆けて、モデルとしての役割を担っており、健康な高齢者の健康への配慮や生き方の多様性等から高齢者のヘルスプロモーションの視点を学び、老年看護と他の学問領域あるいは国内外の社会制度との関連を理解する。また、加齢に伴う身体・精神・社会的特徴を捉え、個々に生きてきた生活史、社会背景から多様な価値観を持つ生活者としての高齢者を多角的な視点で理解し、看護のあり方を学ぶ。			

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	専門分野	生涯発達看護学分野	老年看護学	
		高齢者看護援助論Ⅰ	加齢に伴う身体的、精神的、社会的機能の変化、個体差など特徴を理解するとともに、健康障害を示す病態、症状や徴候、経過、治療法などを学び、高齢者およびその家族を対象とした看護援助の方法並びに援助技術について看護過程を展開しながら学ぶ。また、多様性を有する高齢者をもつ価値観や文化的背景が、健康支援に影響を与える要因についても理解を促し、さまざまな健康レベルにある高齢者が生きてきた生活史とQOLを重視し、効果的な看護を展開するための知識・技術・態度を修得し、実践へとつなげていくことを学ぶ。 ロールプレイでは問診票等の説明資料は日本語版と英語版もしくは両方の言語が併記されているものを用いる。常に英語での表現を意識しながら実践形式での演習を繰り返すことで、「国際看護演習Ⅲ」および「国際看護演習Ⅲ」における医療英語の学びを深化させる。	共同
		高齢者看護援助論Ⅱ	加齢に伴う身体的、精神的、社会的機能の変化、個体差など特徴を理解するとともに、健康障害を示す病態、症状や徴候、経過、治療法などを学び、高齢者およびその家族を対象とした看護援助の方法並びに援助技術について看護過程を展開しながら学ぶ。また、さまざまな健康レベルにある高齢者について理解を深め、高齢者が生きてきた生活史とQOLを重視し、効果的な看護を展開するための知識・技術・態度を修得し、実践へとつなげていく。さらに高齢者看護をより発展させるための課題について検討し社会に貢献できる能力を養う。 ロールプレイで使用する問診票等の説明資料は日本語版と英語版もしくは両方の言語が併記されているものを用いる。常に英語での表現を意識しながら実践形式での演習を繰り返すことで、「国際看護演習Ⅲ」における医療英語の学びを深化させるとともに、多様性への対応を強化する。	共同
		高齢者看護学実習Ⅰ	老年期にある人の特徴を理解し、施設利用者とのかかわりを通して生活の場を知り、生活環境のあり方やQOLを高める援助を考察することをねらいとする。そのため、地域における健康な高齢者を中心に、多様性のある高齢者の身体的・精神的・社会的特徴や高齢者の持つ強みについて学ぶ。また、高齢者が健康維持のために利用する施設の概要、特徴、役割についても理解し、老年期にある人の生活環境を理解する。老年期にある人とのコミュニケーションや観察とおして、生活の実際を知り、老年期にある人のQOLやウェルネスを高める看護のあり方について学ぶ。さらに、同意の得られた高齢期にある対象者を受け持ち、対象者とのコミュニケーションを図りながら、高齢期にある年齢層の対象者理解を深化させ、看護過程の展開を行う。また、対象者との関わりを通して、幅広い年齢層を対象とした看護師としてのコミュニケーション技術を身に付ける。	共同
	高齢者看護学実習Ⅱ	入院治療を必要とする健康障害を持った老年期にある療養者の疾患や加齢・老いに伴う健康障害の影響について理解し、QOLの観点からみた健康障害の回復に向けた看護過程の展開を学ぶ。また、対象者の多様な価値観や信条、生活史、加齢変化に伴う健康状態から保健・医療・福祉にかかわる多職種との連携やチーム医療の重要性を理解し、看護の一員として自己の果たす役割を学ぶ。さらに、看護師として、自己の老年観、死生観について深める。くわえて、同意が得られた高齢期にある対象者を受け持ち、対象理解を深化させながら、看護過程の展開を行う。	共同	
	国際地域看護学分野	精神看護学		
		精神看護学概論	精神看護の基本となる人の心のはたらき、脳の解剖生理、人格の発達過程を理解した上で、精神保健上の健康や障がいについて理解する。また、ストレス、精神的な危機、精神保健上の問題が生活や生き方に与える影響について理解する。精神障害に起因する「生きにくさ」や対象者が抱く思いについて、対象者の立場に立った共感的理解を促すよう教授する。その上で、精神障がい者を支えるリカバリーやストレングスなどの概念について理解し、どのように支援すべきかを考える。	
		地域社会のメンタルヘルスと多様性	現在の日本における精神医療を取り巻く課題とメンタルヘルスとの関連について、海外の精神医療の取り組み等と比較しながら、日本で行われている現行の精神保健福祉法等の施策や支援について、グローバルな視点で考えることができるように教授する。さらに、これまでの精神科の歴史的背景を踏まえつつ、地域移行・地域定着支援や人権擁護等、精神障がい者に対する支援とその必要性について学ぶ。また、リカバリーの視点を持ちながら、看護師としてどのように支援すべきかを考える。	

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	専門分野	国際地域看護学分野	精神看護学	精神看護援助論Ⅰ	既習科目「精神看護学概論」や「地域社会のメンタルヘルスと多様性」での学びを基盤として、主な精神疾患について理解し、それぞれの疾患に応じた看護援助について学ぶ。また、精神看護の目的や日常生活支援などの支援方法についての実際を理解する。ペーパーペーシメントを用いて生物学的、心理学的、社会学的視点から対象者についてアセスメントを行い、必要な看護支援を考える。また、プロセスレコードなどの使用方法を習得し、自己理解の必要性を理解する。 ロールプレイで使用する問診票等の説明資料は日本語版と英語版もしくは両方の言語が併記されているものを用いる。常に英語での表現を意識しながら実践形式での演習を繰り返すことで、「国際看護演習Ⅲ」における医療英語の学びを深化させるとともに、多様性への対応を強化する。	共同
			精神看護援助論Ⅱ	「精神看護学実習」での受け持ち患者を想定して、生物学的、心理学的、社会学的視点から、対象の健康レベルをアセスメントすることを学ぶ。また、対象者のレジリエンスやストレスに着眼し、日常生活への必要な看護支援を考える。さらに、実習時の看護実践に必要なコミュニケーション、リスクマネジメント、リラクゼーションなどについて学内での看護演習を通して、精神障がいがある人と家族の看護に必要な看護技術を養う。 ロールプレイで使用する問診票等の説明資料は日本語版と英語版もしくは両方の言語が併記されているものを用いる。常に「国際看護演習Ⅲ」で学んだ表現を意識しながら実践形式で看護技術の向上を図る。	共同	
			精神看護学実習	「精神看護学概論」、「精神看護援助論Ⅰ・Ⅱ」で学んだことを基礎として、精神科病院に入院する対象を受け持ち、対象者との関係を築きながら、自己理解を深め、対象者のセルフケア能力の維持・向上を目指して看護過程を展開する。また、対象者を取り巻く家族にも焦点を当て、その人のこれまでの人生や生活を理解した上で必要な援助を実践する。具体的には、精神科病院の治療環境を理解し、精神を病む人に「人」として関わることを学ぶ。また、精神を病むことによって生じる日常生活の影響を把握し、必要な看護を実践する。また、看護を提供するために不可欠な看護倫理に基づいた行動をとることができるよう教授する。さらに、チーム医療や多職種との連携、地域での社会資源に関する知識を用い、地域での実際の支援を学ぶ。そして、同意の得られた加療中にある精神科疾患を伴う対象者を受け持ち、対象理解を深化させながら、対象のニーズに応じた看護過程の展開を学修する。	共同	
			在宅看護学	在宅看護学概論	在宅看護の歴史や在宅看護が必要とされる社会的な背景をふまえて、在宅看護の目的・基本的な理念や関連する概念を理解する。在宅看護の対象者の特性と支援のあり方、活動の場・活動方法の特徴および在宅看護の役割と課題ならびにその支援の基盤となる訪問看護制度を学ぶ。さらに、在宅ケアにおけるケアマネジメントや地域包括ケアシステムの基本理念、関係機関・職種との連携の必要性、退院支援、在宅看護を支える制度と社会資源を学ぶ。	
		グローバル化と在宅看護	諸外国の社会情勢による制度の違いや文化の違いをふまえて、在宅ケアに関する諸制度、システム、関連機関・関係職種との連携・協働、サービスやケアを理解する。また、在宅ケアの対象の多様性とグローバル化する地域の特性から、定住外国人の文化的・社会的背景やそれらに起因する特性への理解を深めるとともに、日本での在宅における在宅医療、ケアマネジメント、地域でのコミュニケーションスキル、医療・福祉の連携・協働とその課題について学ぶ。			
		在宅看護援助論Ⅰ	「在宅看護学概論」で学んだことをもとに、在宅看護の対象である在宅療養者・要介護者とその家族のニーズ、療養環境に応じた在宅における基本的日常生活援助並びに医療的援助におけるアセスメントから、生活の質的向上を目指した援助技術と危機管理の具体的展開方法を学ぶ。また、在宅での療養生活を送る上で注視すべき生活および医療上の課題に対する支援と地域包括ケアシステムにおける看護の役割、多職種との連携・協働についても学ぶ。 ロールプレイで使用する問診票等の説明資料は日本語版と英語版もしくは両方の言語が併記されているものを用いる。常に英語での表現を意識しながら実践形式での演習を繰り返すことで、「国際看護演習Ⅲ」における医療英語の学びを深化させるとともに、多様性への対応を強化する。	共同		

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	専門分野	国際地域看護学分野	在宅看護学	在宅看護援助論Ⅱ	<p>生活の場において、医療を必要とする小児から高齢者とその家族への在宅看護の実際に基づくさまざまな健康障害を伴う事例から、療養者とその家族および対象者を取り巻く環境と状況を理解し、各個人に応じた在宅看護を理解する。また、既存の看護学の知識を応用し、医療依存度の高い療養者や終末期ケア、予防を含めた在宅療養の看護とそのプロセスを段階ごとにアセスメントし、看護ケアについて、具体的な在宅看護の実践に結び付けることを学ぶ。</p> <p>ロールプレイで使用する問診票等の説明資料は日本語版と英語版もしくは両方の言語が併記されているものを用いる。常に「国際看護演習Ⅲ」で学んだ表現を意識しながら実践形式で看護技術の向上を図る。</p>	共同
			在宅看護学実習	<p>健康上の問題をもち在宅で暮らす療養者とその家族に対する看護実践能力の基本的な知識・技術・態度を養うことを目標とする。具体的には、訪問看護に必要な情報を収集し、療養者とその家族のセルフケアを促進するための看護援助への参加をとおして、訪問看護のプロセス、療養者とその家族のニーズ、在宅看護システムとケアマネジメント、訪問看護師の役割について学ぶ。さらに、個別の訪問看護事例を通して、看護過程の展開を行い、在宅療養者が利用できる社会資源とその活用方法、多職種との連携の実際について学ぶ。そして、同意の得られた在宅看護の対象者とのコミュニケーションを図り、対象理解を深化させながら、在宅で実施する対象のニーズに応じた看護の方法を学修する。</p>	共同	
		国際看護学	国際看護学概論	<p>地球全体を人々が暮らす地域または生活の場と捉える「グローバル」の概念を軸として、看護倫理の考え方にに基づき、多様な文化や社会的、歴史的背景および価値観や宗教、習慣等をもつ人々の存在を理解、受容し、自身との相違も認識しながらお互いを尊重し、国際化する社会において健康支援や看護を実践する看護師の役割を学ぶ。</p> <p>日本に暮らす人々の多様性を定住外国人や訪日外国人および在外日本人を通して知るとともに、彼ら/彼女らが抱える健康課題やそれぞれに求められる健康支援の在り方や看護活動の実際について学修する。さらに、国際保健および国際看護の概念と歴史の変遷や保健・医療システム、紛争、難民・移民問題等、国内外の医療や保健に係る問題点や健康課題、看護活動について学修する。</p>		
		国際看護演習Ⅰ	<p>「Practical English I for Nurses」「Practical English II for Nurses」での学びを基盤に据えて、挨拶、声かけ、症状（痛み、発熱、下痢等）の聞き方および外来診療の介助等の英語表現を学ぶ。学生同士が看護職者と患者の双方の立場で自身の症状やそれに応じた外来診療の介助方法のロールプレイを英語で行う。</p> <p>ロールプレイでは英語版もしくは日本語と英語が併記されている問診票等の説明資料を用い、実践的かつ具体的な看護場面を設定して、学修内容の定着を図る。</p> <p>また、できるだけ平易な日本語表現で物事を説明する方法についても考察するとともに、言葉の違いを乗り越えてコミュニケーションを図るために、視覚教材を用いる等のノンバーバルなコミュニケーションについても学修する。</p>	共同		
		国際看護演習Ⅱ	<p>「国際看護演習Ⅰ」の学修内容を基礎として、入院してから退院するまでの対象者の生活について、一連の経過を英語を用いて説明することを学ぶ。英語版もしくは日本語と英語が併記されている「診療申し込み書」「入院申し込み書」「入院歴の確認」「面会について」等の説明資料を用いて、入院申し込みや、病棟案内、入院中の生活や面会など入院生活を送るうえで必要な内容について、会話以外に、視覚教材等を用いて説明する工夫も学ぶ。さらに、病棟における基礎看護技術（全身清拭、足浴、洗髪、寝衣の交換、身体の移動、体位変換など）を実施する際の会話や説明方法について学ぶ。</p> <p>なお、授業は原則として英語で行うこととし、英語を「聴き」「理解」した上で看護職者として「適切な医療英語を用いて表現する力」を身に付ける。</p>	共同		

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	専門分野	国際地域看護学分野	国際看護学	国際看護演習Ⅲ	「国際看護演習Ⅰ」と「国際看護演習Ⅱ」で学んだ知識を復習しながら、成人、母性、小児、老年、精神、在宅等の各専門看護学領域における主な医療英語を学修する。英語版もしくは日本語と英語が併記されている「呼吸器科問診票」「循環器科問診票」「消化器科問診票」「小児科問診票」「精神科問診票」「産婦人科問診票」等を用いて、各専門領域の問診内容への理解を深める。視覚教材を用いる等、より伝わる方法を考えながら投薬、点滴、安静、食事介助等に関する説明ができるよう学修する。さらに、問診や入院場面および診察の介助場面で求められる基本的な会話や説明を医療英語を用いて行う。 なお、授業はすべて英語で行うこととし、「国際看護学実習Ⅲ」における海外での臨地実習に向けて、看護職者として適切な医療英語を用いたコミュニケーションを取ることができる能力を身に付ける。	共同
				国際看護演習Ⅳ	この授業は、受講を希望する学生を対象に「国際看護演習Ⅰ～Ⅲ」の学修内容を総括する。授業はすべて英語で行うこととし、問診から入院、病院内での診察および援助場面を想定したロールプレイを繰り返しながら、医療英語の活用能力を高める。 また、ポルトガル語とスペイン語等の英語以外の言語にも触れ、非言語コミュニケーションを駆使して、言語の異なる対象者にも積極的ににかかわる姿勢を身に付ける。	
				国際看護学実習Ⅰ	阪神地区に在住する定住外国人を中心に、彼ら/彼女らのもつ多様性と、文化的、社会的、歴史的背景を理解し、対象者がもつ価値観や生活習慣および健康に影響を与える要因について学修する。また、幼児期から高齢者までの幅広い年齢層を対象として、それぞれの発達段階に応じた特徴と健康課題および健康支援や看護活動の実際に触れる。そして、その対象者が暮らす地域の特徴や利用できる健康支援の人的、物的資源についても理解を深め、今後の学修の基盤とする。 グローバル人材としての看護師のあり方を学ぶ学生として、看護専門職の倫理に基づいた姿勢で対象者とのコミュニケーションを図り、主体的に学ぶことができる能力を培う。	共同
				国際看護学実習Ⅱ	訪日外国人や定住外国人、帰国者および在外日本人の健康課題や感染症対策および健康に影響を与える要因について、実習を通して理解する。彼ら/彼女らが受診する医療現場における看護職者の介助方法のほか、医療従事者と対象者双方をサポートする医療通訳者の支援活動など、グローバル社会において求められる看護の実際に触れる学修とする。 加えて、多様性のある対象者への理解と受容を深め、健康を支援する看護師として医療現場における多職種との調整的役割のあり方を学修する。さらに、多様性を有する対象者に合った言語的・非言語的コミュニケーションや視覚教材およびITを用いたコミュニケーションのとり方も学び、グローバル人材としての看護師を目指す学生として、人権意識を遵守し、看護専門職の倫理に基づいた姿勢で主体的に学ぶ姿勢を身に付ける。	共同
				国際看護学実習Ⅲ	これまでに学んだ看護の知識・技術と「国際看護学概論」、「国際看護演習Ⅰ～Ⅲ」、「国際看護学実習Ⅰ～Ⅱ」で学修した内容を統合し、海外の看護系大学および病院において学修する。 現地の医療現場における対象者の多様性とそれに伴った健康支援について、自国と諸外国との医療および看護の相違に着目しながら学びを深める。実習先の病院においては可能な限り対象者および周囲の人々とコミュニケーションを図り、グローバルコミュニケーション能力の強化を図る。また、自身が言語や生活習慣、価値観の異なる人々が暮らす環境に身を置く事で、グローバル社会の中で人々が直面する困難感や多様性を受容する考え方の重要性について、実体験を通して理解を深める機会とする。	共同

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	専門分野	統合分野	看護探究学	外国人診療	<p>定住外国人や訪日外国人などの多様性のある対象者への医療と看護場面の事例を通して、外国人診療を行う際に必要な病院の体制、活動、スタッフ教育および医療通訳などの多職種連携の実際を学ぶ。また、対象者が感じる心理的ストレスへの理解や受容のあり方に加えて、文化や価値観の相違に起因するトラブルや留意点および対応策についても理解を深め、適切な対応方法を学ぶ。さらに、地域における定住外国人への支援、海外における看護、帰国者の感染対策、在外日本人の健康支援も学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(1 鈴井 江三子/2回) 単位認定者 定住外国人や訪日外国人の親子が病院を受診した際に求められる支援と、在外日本人の親子が海外において受療行動をする際の現状と課題について学修する。</p> <p>(① 大橋 一友/3回) 地域における定住外国人への医療、海外における医療や保健サービスの現状、帰国者の感染対策および在外日本人の健康支援を学ぶ。</p> <p>(54 新垣 智子/3回) 定住外国人や訪日外国人が医療機関を受診した際に起こり得るトラブルや対応策について、具体的な事例を挙げながら教授する。さらに、医療通訳等の多職種との連携やスタッフへの教育等、外国人診療を行う医療機関の体制と取り組みについて理解を深める。</p>	オムニバス方式
				災害看護	<p>災害は、平常時から地域全体で備えることが肝要である。災害に対する心構えや備えと、実際に被災した際に被災地域や被災者の看護を行う上で必要な知識とその方法について学ぶ。また、災害が及ぼす人々への健康被害と災害に対する社会の取り組みを理解する。超急性期、急性期、慢性期といった災害時の各フェーズに応じて求められる看護の役割と、被災地域の人々や多職種と連携・協働した看護支援活動の方法を学ぶ。</p> <p>また、災害が社会の変化や地域の人々の暮らしと密接に関係しながら、人々の生命や生活に影響をおよぼすことを理解し、国際社会における災害看護の実際と諸問題および災害時の安全なケア環境の提供について学ぶ。</p>	
				看護研究 I	<p>研究方法の基本的知識を学ぶとともに、看護実践を探究することの重要性や、看護研究の意義・目的について理解する。研究課題の設定、文献検索、文献クリティーク、研究方法の決定、データの収集・分析、研究結果の報告といった一連の研究過程について学ぶ。さらに、人を対象とした看護研究を行うにあたり、研究対象者の権利擁護の考え方や、研究の過程で必要とされる倫理的配慮についても学修する。</p>	
				看護研究 II	<p>「看護研究 I」の学びを基に研究課題・目的を明確にし、担当教員と主体的に綿密な連絡をとりながら、研究課題の抽出、研究計画の立案、倫理申請書類の作成、研究の実施（データ収集）、データ分析、考察等、研究を展開する際に必要な一連のプロセスを学ぶ。看護研究を行う上で求められる倫理的配慮や、収集したデータの適切な活用方法を理解した上で、卒業論文として自身の研究成果をまとめる。本授業を通して、よりよい看護を探究する姿勢と問題解決能力を向上させ、将来の研究活動の基盤を作る。</p>	演習 60 時間 講義 16 時間
				統合看護学実習	<p>基礎看護学、成人看護学、母性看護学、小児看護学、老年看護学、精神看護学、在宅看護学、国際看護学の領域に分かれて、病院等の医療機関において、個人または集団を対象に、対象者の有する複雑多岐にわたる文化的、社会的、歴史的な背景を意識しながら、それぞれが求めるニーズに応じた適切な看護を実践する。</p> <p>これまでに学んだ知識・技術・態度のすべてを統合し、グローバル人材としての看護師としてふさわしい姿勢で、看護計画に基づく優先順位を考えた看護過程の展開やタイムマネジメント、多職種との連携、適切な報告・連絡・相談等の一連の看護を臨床現場において行う。</p> <p>また、卒後のキャリアを見据えて、学生自身が医療チームの一員である自身の役割を踏まえ主体的に看護計画を立て、実習指導者のもとで実践する機会とする。一連の実習を通して、看護専門職としての責務を理解し、自己の在り方を考察する能力を身に付ける。</p>	共同

学校法人大手前学園 設置認可等に関わる組織の移行表

平成30年度

入学
定員

編入学
定員

収容
定員

平成31年度

入学
定員

編入学
定員

収容
定員

変更の事由

大手前大学			
総合文化学部 総合文化学科	190	2年次 4 3年次 2	776
メディア・芸術学部 メディア・芸術学科	180	2年次 4 3年次 2	736
現代社会学部 現代社会学科	220	2年次 4 3年次 2	896
健康栄養学部 管理栄養学科	80	3年次16	352
現代社会学部 現代社会学科 (通信教育課程)	500	3年次 500	3,000
計	1,170	2年次 12 3年次 522	5,760
大手前大学大学院			
比較文化研究科 (博士前期課程)	10	—	20
比較文化研究科 (博士後期課程)	3	—	9
計	13	—	29
大手前短期大学			
ライフデザイン総合学科	250	—	500
計	250	—	500
大手前栄養製菓学院専門学校			
専門課程 栄養学科	80	—	160
専門課程 製菓学科(1年コース)	40	—	40
通学課程計 (別科)	(120)	—	(200)
通信課程 製菓学科(1年コース)	120	—	120
計	240	—	320

大手前大学			
総合文化学部 総合文化学科	190	2年次 4 3年次 2	776
メディア・芸術学部 メディア・芸術学科	180	2年次 4 3年次 2	736
現代社会学部 現代社会学科	220	2年次 4 3年次 2	896
健康栄養学部 管理栄養学科	80	3年次16	352
現代社会学部 現代社会学科 (通信教育課程)	500	3年次 500	3,000
国際看護学部 看護学科	80		320 学部の設置(認可申請)
計	1,250	2年次 12 3年次 522	6,080
大手前大学大学院			
比較文化研究科 (博士前期課程)	10	—	20
比較文化研究科 (博士後期課程)	3	—	9
計	13	—	29
大手前短期大学			
ライフデザイン総合学科	200	—	400 定員変更(△50)
計	200	—	400
大手前栄養製菓学院専門学校			
専門課程 栄養学科	80	—	160
専門課程 製菓学科(1年コース)	40	—	40
通学課程計 (別科)	(120)	—	(200)
通信課程 製菓学科(1年コース)	120	—	120
計	240	—	320